

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名古屋市
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中区三の丸三丁目1-1
工場等の名称	名古屋市中央卸売市場南部市場
工場等の所在地	名古屋市港区船見町1-39
業種	公務その他
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	牛・豚のと畜・解体、食肉の卸売
計画期間	令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月31日 ~ 令和5年10月29日		
公表方法	○	掲 示 閲 覧	(場所) 事務所内
		ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-614-4129		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

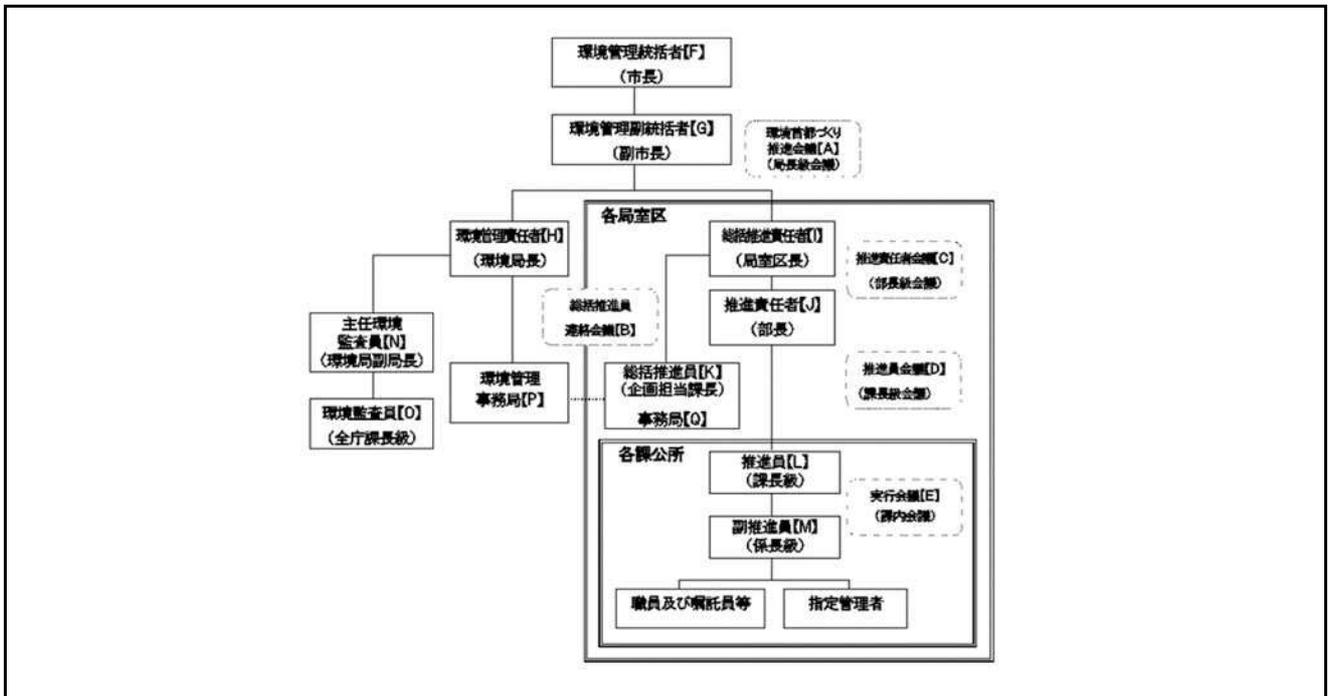
(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

名古屋市中央卸売市場南部市場 環境方針

1. 基本理念  
 名古屋市中央卸売市場南部市場は、名古屋市が目指す「環境首都なごや」の実現をめざし、また、環境保全を最重要課題と認識し、環境に配慮した市場業務活動を行うよう努めていきます。

2. 基本方針  
 1. 食肉を取扱う中央卸売市場として、環境マネジメントシステムを構築し、その効果的な運用により、継続的な環境改善・汚染予防に取り組みます。  
 2. 排水処理及び脱臭設備などの施設維持管理を適切に行い、環境関連の法令・条例および地域住民との協定書を遵守します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		10,186	t-CO <sub>2</sub>
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		10,186

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
温室効果ガス総排出量	9,886	t-CO <sub>2</sub>	9,589	t-CO <sub>2</sub>	9,913	t-CO <sub>2</sub>	10,186	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 0.3	%	▲ 3.0	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

と畜頭数が基準年度の令和2年度から12.5%増加しており、これに伴うと畜で使用する設備の稼働時間等の増加によりエネルギー使用量が増加したものと考えられる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調のリモコンに冷房28℃暖房19℃と表示し、温度管理を徹底する。</li> <li>・空調のスケジュール管理を徹底する。</li> <li>・中間季等において、外気を利用した換気運転を行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調機リモコンへの設定温度の貼付を継続した。</li> <li>・共用エリア等の空調機運転を中央監視室で集中管理した。</li> <li>・外気温度の低い中間期に外気導入の換気運転を行った。</li> </ul>
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間引き点灯、こまめな消灯などを呼びかける。</li> <li>・照明プログラムのスケジュールを見直す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下等の照明器具で間引き点灯を行った。</li> </ul>
省エネルギー・省資源の行動の実践・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ階段を使用するよう呼びかける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会を捉えて呼びかけを行った。</li> </ul>
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要不急の公用車利用を控える。</li> <li>・毎月8日は事務連絡車は使用しない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公用車利用の用件を調整して使用の抑制に努めた。</li> </ul>

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議用資料の両面または裏面印刷、少量化を徹底した。</li> <li>・ 使用済用紙 (裏紙) の再利用により、紙の使用枚数を抑制した。</li> <li>・ グリーン購入ガイドラインにしたがって購入した。</li> </ul>
---

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やむを得ない場合を除き、事務連絡車の使用を控えた。</li> </ul>
---